

新技術名：リンゴ主要害虫に対する IGR 剤の実用化（昭和63年～平成4年） ⑥・参
（カスケード乳剤の防除効果）

研究機関名 果樹試験場環境部虫害担当、鹿角分場
担 当 者 高橋佑治・大隅専一・舟山 健

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

新しく開発された昆虫成長制御剤（IGR 剤）のカスケード乳剤のリンゴ主要害虫に対する防除効果を検討し、実用化をはかる。

○経過と方法

リンゴコカクモンハマキが発生しているふじを供試し、開花前に散布し落花後に被害叢数、在虫数を調査した。キンモンホソガ、ギンモンハモグリガには食入前に動力噴霧機で散布し、その後発生状況を調査した。

○技術の要旨

カスケード乳剤2000倍は訪花昆虫に影響がなく、開花前後のハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ等主要害虫の同時防除が可能であり、平成7年度防除基準に採用した。

(2) もたらされる効果

普通物で訪花昆虫に影響がない IGR 剤で、既に実用化しているアタブロン SC と同等の防除効果が期待できるのに加えて、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガとの同時防除が可能なのが特徴で、他の有効薬剤を混用使用する必要がない。またリンゴハダニにもある程度の防除効果が期待できる。

(3) 普及対象範囲

県内全域

(4) 普及上の留意事項

1. 2000倍で開花直前または落花直後に使用する。
2. 昆虫生育阻害剤のため、効果発現は遅効的である。
3. 収穫14日前まで2回以内、普通物 B類相当

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表-1 リンゴコカクモンハマキの防除効果（平成4）

試験区	希釈倍数	調査花葉叢数	在虫花葉叢数	寄生叢率	1側枝平均在虫数
カスケード乳剤	4000	931	22	2.4	1.8
トアロー水和剤CT	1000	1038	24	2.3	2.0
無散布区	—	1011	92	9.1	7.7

散布月日：4月30日 調査月日：5月21日

表-2 キンモンホソガの防除効果（平成元、鹿角分場）

試験区	希釈倍数	調査新梢数	被害新梢数	マイン数	1新梢当りマイン数
カスケード乳剤	2000	60	6	12	0.2
硫酸ニコチン	1000	60	13	39	0.7
無散布区	—	60	60	716	11.9

散布月日：8月23日 調査月日：9月21日

表-3 キンモンホソガの防除効果（平成2）

試験区	希釈倍数	調査葉数	被害葉数	マイン数	被害葉率	1新梢当りマイン数
カスケード乳剤	2000	300	7	7	2.3	0.2
硫酸ニコチン	1000	300	9	9	3.0	0.3
無散布区	—	300	147	213	49.0	7.1

散布月日：7月11日 調査月日：8月20日

表-4 ギンモンハモグリガの防除効果（昭和63、鹿角分場）

試験区	希釈倍数	調査新梢数	被害新梢数	被害個数
カスケード乳剤	2000	60	5	13
スプラサイド水和剤	1500	60	8	11
無散布区	—	60	17	30

散布月日：6月17日 調査月日：7月4日

発行年月	9506	キーワード	253
基礎分類	35	キーワード	
作目名	35	キーワード	